

家庭でできる!!

原木クリタケの栽培

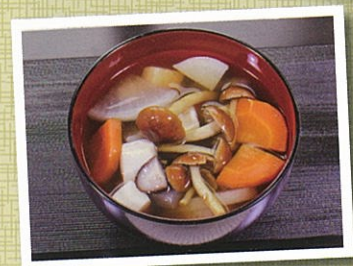


クリタケは秋の比較的遅い時期に発生し、味・形ともに野性味があり、キノコ狩りを楽しむ人々に人気があるキノコです。他のキノコに比べて発生しやすく、5～8年と長い期間栽培を楽しめます。

お料理

クリタケは、色・姿・味が良いだけでなく、いろいろな料理法ができ、特に茎が繊維質でサクサクとした歯ごたえが楽しめます。

特に油と相性が良いので、天ぷらやフライなどに合います。また、きのこ御飯や野菜類との煮付にも向き、けんちん汁や味噌うどんに入れても良いでしょう。



クリタケの原木栽培方法

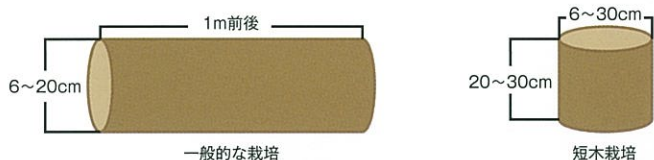
STEP 1 原木

コナラ、ミズナラ、クヌギ、クリ、シイ、カシ、ハンノキ、サクラなどの広葉樹が適しています。

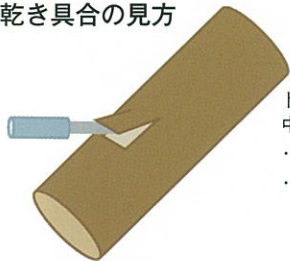
STEP 2 伐採、玉切り

原木はなるべく早め、紅葉が5~7分の頃に伐採するのがよく、遅くとも年末までには行います。直径6~20cmくらいで1m程度の長さのものが一般的です。クリタケは覆土栽培なので、生木状のものは土の中では枯れず、菌が生長できない為、あらかじめ十分に乾燥させます。玉切り作業は、一般的に1月下旬~3月末頃までに行い、玉切り後は即接種作業を行います。

●原木の大きさ



●乾き具合の見方

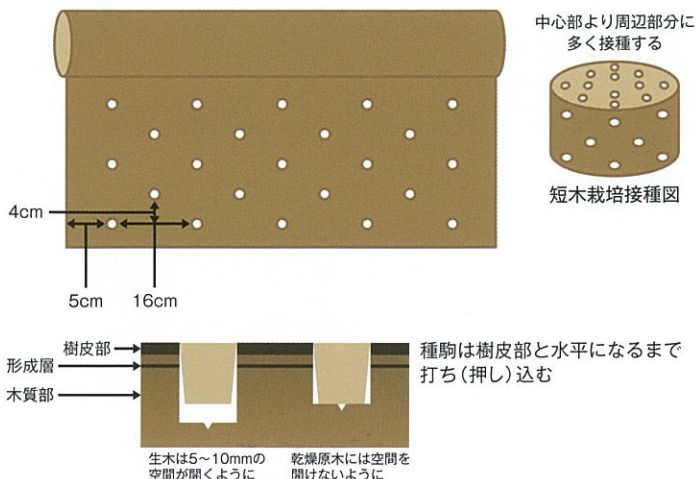


ドライバー等で樹皮を剥がし、中の形成層の色で判断する。
・淡緑色でヌルヌル→生木
・淡黄色~淡褐色→クリタケに適期

STEP 3 接種

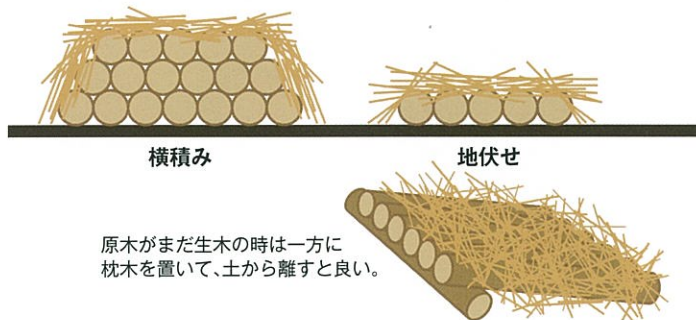
3~4月下旬までに行います。クリタケ菌はシイタケなどに比べ生長速度が遅いので、通常より少し多めに接種します。駒の間隔は縦方向約16cm、横方向約4cmの千鳥植え(下図)で、接種数は長さ1mの原木の場合は直径の約3~4倍になります。短木の場合は、木口面と樹皮面に下図の要領で接種します。種駒は9.2mmのキリを使用し、穴は生木に近ければ25~30mm、十分乾燥させたものであれば20~25mmの深さに開けます。

●接種方法(千鳥植え)



STEP 4 仮伏せ

4月までに接種した原木は排水の良いところに、横積みにして、周囲をワラなどで囲い、15日間くらいは毎日たっぷりと散水します。散水をしないと、原木が乾いているので種駒の水分が原木にとられてしまいます。散水できないところや4月以降に接種した場合は、直射日光が当たらず排水の良いところに1本ずつ並べて地伏せにします。



STEP 5 本伏せ

9月下旬~11月中旬に、菌糸がホダ木(キノコ菌を接種した原木)内にまん延していることを確認してから、水はけの良い土壌に埋め込みます。水分が抜けていなかったり、菌糸のまん延が遅れている場合は、埋め込み作業を翌年春まで待ちます。菌糸がまん延したホダ木を並べる間隔を10cm程度あけ、木の上面がかすかに見える程度に土をかけ、その上に落ち葉等をかけておきます。湿度が高いところでは、木が半分くらい土に埋まる程度にします。



本伏せの前に木を輪切りにして、枯れ具合と菌の伸び具合を見る。



STEP 6 発生

栽培する地方によっても異なりますが、通常接種翌年の10月上旬から11月中旬にかけて発生します。発生の期間は約2週間と短いですが、発生は5~8年間続きます。傘を開かせすぎると胞子が傘の表面に付着し、商品価値が下がるので膜が開く直前に収穫します。キノコはホダ木からだけでなく、周辺の土壌からも発生するのでツボミを踏みつけないように注意します。

●採りごろ



STEP 7 収穫後の管理

伏込み地をときどき見回って雑草などを刈り取り、通風をよくします。また、夏の直射日光を防ぐために庇陰の調節をします。